

厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)
分担研究報告書

全国保健所長会のメーリングリストにて行った公衆衛生医師の現状把握ならびに
モチベーションや課題に関するウェブ調査研究

研究代表者	吉田穂波 (神奈川県立保健福祉大学)
研究分担者	渡邊 亮 (神奈川県立保健福祉大学)
研究分担者	佐藤大介 (国立保健医療科学院)
研究分担者	吉村健佑 (千葉大学医学部附属病院)
研究協力者	曾根智史 (全国保健所長会／国立保健医療科学院)
研究協力者	廣瀬浩美 (全国保健所長会／愛媛県宇和島保健所)
研究協力者	宇田英典 (全国保健所長会／鹿児島県伊集院保健所)
研究協力者	清古愛弓 (全国保健所長会／葛飾区保健所)
研究協力者	宮園将哉 (全国保健所長会／大阪府寝屋川保健所)
研究協力者	宗 陽子 (全国保健所長会／長崎県県南保健所)
研究協力者	村松 司 (全国保健所長会／北海道網走保健所)

要旨【目的】 インターネット調査を用いた公衆衛生医師に対するコンピテンシーや課題についての意識調査を実施した。**【方法】** インターネット調査の項目については、全国保健所長会の研究協力者の先生方と相談して決定し、インターネット経由で回答できる形式として調査を企画した。倫理審査の受理を経て平成30年2月に調査を実施し解析を行った。調査への協力依頼は全国保健所長会からの通達文を用いてメーリングリストにて行った。調査内容は公衆衛生医師としてのキャリア、やりがいや課題とした。**【結果】** 回答を得たのは273名(平均年齢52.1歳)。男性170名(平均年齢53.4歳)、女性103名(平均年齢49.9歳)であった。医師資格取得年数は男性(n=169)平均27.7年、女性(n=104)平均24.9年であった。医師歴のうち公衆衛生医師勤務年数は男性(n=169)平均16.4年、女性(n=104)平均13.3年であり、平均して卒後10年ほどで公衆衛生医師の道に入る傾向が見られた。社会医学系専門医の取得状況は、273名のうち専攻医16名(5.8%)、専門医11名(4.0%)、指導医181名(65.6%)という状況であった。勤務先種別は保健所168名(61.3%)、本庁50名(18.2%)が多かった。「これからもキャリアを重ねたい」という勤務継続意欲と有意に関連のある要因として、男性は「給与が見合っている」が挙げられたが、年歳が上がるとともに勤務意欲が低下する結果となった。女性は「子どもがいるから」「興味のある仕事だから」という要素が勤務継続と有意な関連が見られた。**【考察】** 今回のように、全国保健所長会のバックアップのもとで現役の公衆衛生医師の新たなデータを抽出できたことは、課題抽出と解決策の発見につながる可能性があり、更なる活用が望まれる。本調査への全国保健所長会の惜しみない協力を深謝する。

A. 目的

近年、少子高齢化による医療需要の増加に伴い、医師の不足が課題となっている。病院などの医療機関に勤務する臨床医師の不足のみならず、地域保健の維持・向上に於いて重要な役割を担う全国の保健所や、自治体に勤務して健康・医療の政策立案に携わる医師(以下「公衆衛生行政医師」とする)の不足も大きな課題となっている。厚生労働省は、公衆衛生医師確保の困難さを背景に、平成23年度より公衆衛生医師の確保・人材育成に関する調査および実践事業として、実態調査や研修、セミナー等を実施してきた。平成26年には、各自治体が公衆衛生行政医師に向けた「公衆衛生医師確保のためのガイドライン案」が示された。また、全国の保健所長で構成される全国保健所長会は、厚生労働省の地域保健総合推進事業の一環として「公衆衛生医師の確保・人材育成に関する調査及び実践事業」を実施しており、平成28年度には社会医学系専門医制度に関するアンケート調査の結果として、現職の公衆衛生行政医師の業務における満足度は7割を超えているものの、4割を超える回答者が転職希望について「今ある」「ときどき」と答えるなど、公衆衛生行政医師の「流出」も懸念される結果が示されている。

以上のように、公衆衛生行政医師の確保・育成に向けた取り組みや調査は以前から行われているものの、十分な成果が上げられていないとは言えない。特に、公衆衛生行政医師の確保に関して既に行われている取り組みや、その取り組みにおける構造的な課題、加えて公衆衛生行政医師として求められる資質について、さらなる調査が求められる。

そこで本研究は、自治体の公衆衛生医師の確保と育成を促進するために、

- 1) 女性医師、若手医師、ベテラン医師が公衆衛生医師の具体的な活躍のイメージを関係組織と共有すること、
- 2) 社会医学系専門医認定プログラムや自

治体の公衆衛生医師養成プログラムを基に、行政機関の公衆衛生医師におけるコンピテンシーとその育成プログラムポリシーを策定すること、

- 3) 公衆衛生医師に求められる資質や育成に関するガイドラインを整備すること

を目的とした研究の一部として、特に現在の公衆衛生医師が持つ仕事に対する価値観を明らかにすると共に、公衆衛生医師確保に向けた具体的なリクルート対象の細分化や、細分化された対象別の医師確保戦略の検討を主たる目的として、全国の保健所長及び保健所等に勤務する公衆衛生行政医師を対象に無記名のウェブアンケート調査を行った。

B. 研究方法

1. 研究の方法

- ・ 研究のデザイン
 - ・ 無記名のウェブ質問票を用いた横断研究
- ・ 対象とリクルート
 - ・ 全国の保健所長及び保健所等に勤務する公衆衛生行政医師を対象
 - ・ 全国保健所長会を通じて全国全ての保健所を対象として研究協力を依頼
- ・ 調査データの収集方法
 - ・ 全国保健所長会が運用するメーリングリストを通じて、全国保健所長宛てに本調査への協力依頼文を発出する。
 - ・ 協力依頼に応じた方は、研究班のウェブサイト上に掲載されたウェブアンケートフォームから回答を行う。
 - ・ 回答結果は、本研究の研究代表者及び分担研究者のみがアクセスできるデータベースに格納される。
 - ・ アンケートの回答をもって同意と看做す。
- ・ 分析方法
 - 基本統計量
 - ① 連続変数
 - 平均値及び標準偏差を算出

② 名義変数

度数及び割合を算出

「公衆衛生医師を志望した動機」としてのあてはまりを 5 段階のリッカート尺度で尋ねた設問について、それぞれ性・年齢階級別に算出し、 χ^2 検定を行う。

- ・ 「これからも、公衆衛生医師としてのキャリアを重ねていきたい」(5 段階のリッカート尺度)を目的変数、「性」「年齢」「配偶者の有無」「勤務先種別」「仕事について、以下の項目はどの程度当てはまりますか」「医師資格取得年数」などを説明変数として、オーダード・プロビット解析を行う。

2. 研究期間

平成30年10月5日から10月31日まで

3. 研究対象者の選定方針

繰入基準：全国の保健所長及び保健所等に勤務する公衆衛生行政医師(調査時点)で、本調査への協力依頼に同意した対象者

除外基準：本調査に同意できない対象者

4. 研究の科学的合理性の根拠

本調査を通じて公衆衛生行政医師の仕事に対する価値観や、背景が数量的解析の下で可視化されることにより、公衆衛生行政医師のなり手として期待されるターゲットが明らかになると共に、公衆衛生行政医師のキャリア構築や継続における課題が明確になることで、公衆衛生行政医師の人材確保に向けたターゲットの明確化や、人材育成に必要な環境整備等の検討につながる事が期待される。本研究目的を達成するためには、実際に公衆衛生行政医師として勤務する現役の医師に調査をする方法以外にないと考えられる。

5. インフォームド・コンセントを受け る手続等

本研究は匿名のアンケート調査であることから、インフォームド・コンセントを受ける手続きは実施しないが、調査の実施にあたって、下記についてアンケート調査を行うウェブ調査フォームのページに「研究対象者への説明書」と

して掲載し、研究対象者に通知を行う。匿名調査につき、本調査への回答を以て調査参加への同意があったものと看做し、同意書・撤回書は準備しない。

6. 研究に関する情報公開の方法

本研究の成果は、学術論文、学会発表などによって発表すると共に、研究報告書において成果を公表するほか、ウェブサイトを作成して情報を公開する。

なお、本研究全般を通じて介入を伴う研究は行わないため、公開データベース等への登録は行わない。

7. 研究対象者等及びその関係者からの 相談等への対応

本調査の研究対象者に対して提示する研究参加の依頼文、及び研究対象者への説明書についてアンケート調査を行うウェブフォームに掲載し、研究代表者の連絡先を示した上で、研究対象者及びその関係者からの相談に対応する。

また、研究者及び研究班と独立した相談窓口として「神奈川県立保健福祉大学 研究倫理相談窓口」を案内する文言をウェブ上に掲示する。

C. 結果

1. 基礎集計値

基礎値 (合計273名、平均年齢52.1歳)

男性170名、平均年齢53.4歳

女性103名、平均年齢49.9歳

医師資格取得年数

男性 (n=169) 平均27.7年、女性 (n=104)
平均24.9年

公衆衛生医師勤務年数

男性 (n=169) 平均16.4年、女性 (n=104)
平均13.3年

社会医学系専門医の取得状況

専攻医16名 (5.8%)、専門医11名
(4.0%)、指導医181名 (65.6%)

勤務先種別 (上位2位)

保健所 168名 (61.3%)、本庁 50名
(18.2%)

「これからもキャリアを重ねたい」と有意に関連のある要因

男性：「給与が見合っている」、「年齢」は上がると有意に勤務継続意欲が低下

女性：「子ども有り」「興味のある仕事だから」に回答した人は有意に勤務継続意欲を見せた。

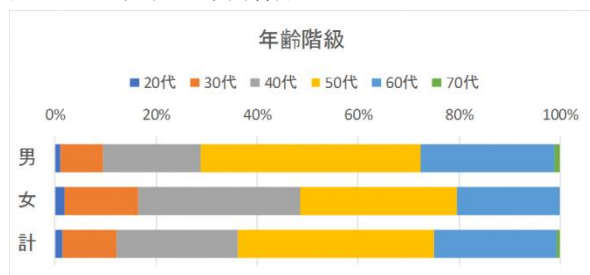
表 1. 回答者の基本属性

項目	男性				女性				合計			
	N	平均	標準偏差	中央値	N	平均	標準偏差	中央値	N	平均	標準偏差	中央値
年齢	170	53.4	9.2	55.5	103	49.9	9.8	51	273	52.1	9.6	54
医師資格取得年数	169	27.7	9.6	30	104	24.9	10.1	25	273	26.6	9.9	29
公衆衛生医師勤務年数	169	16.4	11.6	14.75	104	13.3	11.2	11	273	15.2	11.5	13.5
現勤務先の勤務年数	166	3.1	3.8	1.5	100	2.8	4.1	1.5	266	3.0	3.9	1.5
通勤時間(分)	156	42.7	29.0	40	88	44.7	27.9	37.5	244	43.4	28.6	40
常勤人数	172	2.2	2.4	1	104	2.9	4.5	2	276	2.4	3.4	2
非常勤人数	172	0.4	1.4	0	104	0.3	1.1	0	276	0.4	1.3	0
常勤換算人数	172	2.4	2.6	1.75	104	3.1	4.7	2	276	2.6	3.5	2

2. 回答者の年齢層

最も多かったのは50代（男性43.5%、女性31.1%）、次に40代（男性19.4%、女性32.0%）であった。

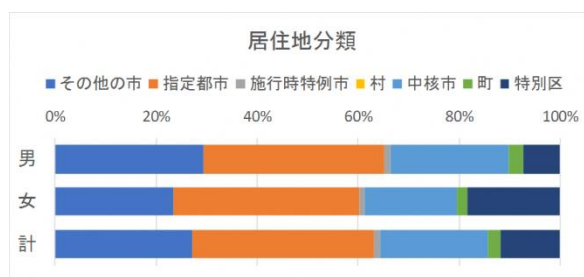
図 1. 回答者の年齢階級別グラフ



3. 居住地

回答者の居住地は指定都市（男性35.6%、女性36.4%）、次いでその他の市（男性29.5%、女性23.2%）、中核市（男性23.5%、女性18.2%）が多かった。

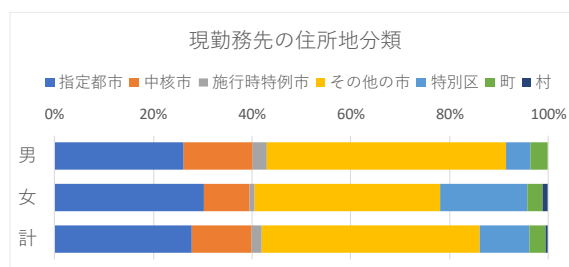
図 2. 回答者の居住自治体規模別グラフ



4. 現勤務先の住所地分類

回答者の勤務先はその他の市（男性48.6%、女性37.5%）が多く、次いで指定都市（男性26.1%、女性30.2%）の順であり、都心部の住居から町村に通勤している回答者も一定数いることが明らかになった。

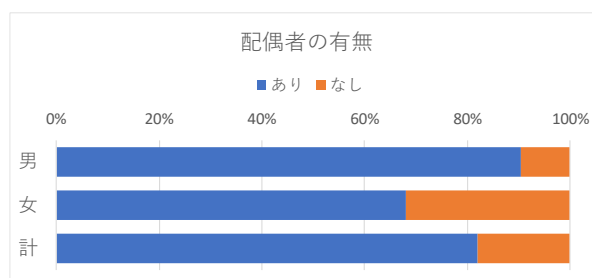
図 3. 性別・勤務先自治体規模別グラフ



5. 配偶者の有無

男性の90%、女性の68%が既婚者であった。

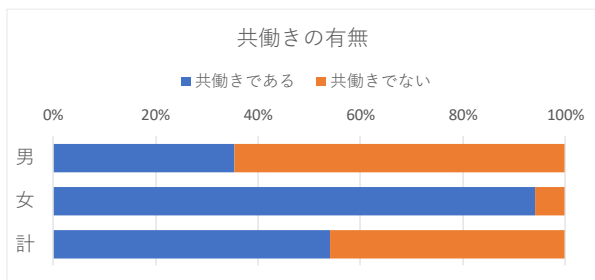
図 4. 性別・配偶者の有無別グラフ



6. 共働きか否か

男性の35%、女性の94%が共働きであった。

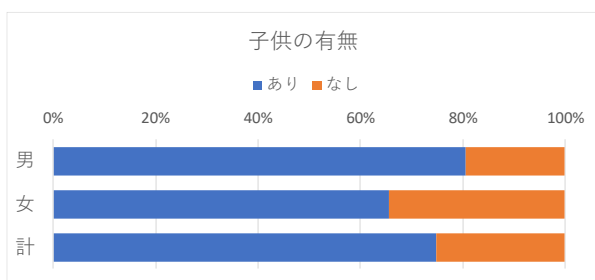
図 5. 性別・共働きの有無別グラフ



7. 子どもの有無

男性の81%、女性の66%が子どもを持っていた。

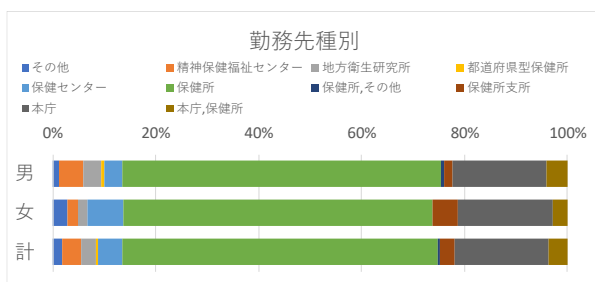
図6. 性別・子どもの有無別グラフ



8. 勤務先種別

上位2位は男女とも同じく男性の62%、女性の60%が保健所勤務、男性の18%、女性の18%が本庁勤務であった。男性で次に多い勤務先は精神保健福祉センター(4.7%)、女性のうち次に多い勤務先は保健所支所(4.9%)であった。

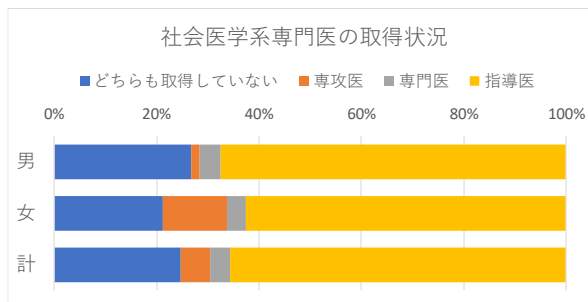
図6. 性別・勤務先種別



9. 社会医学系専門医の取得状況

指導医(男性67.4%、女性62.5%)が最も多く、専門医、指導医のどちらも取得していない(男性26.7%、女性21.2%)が次に多かった。

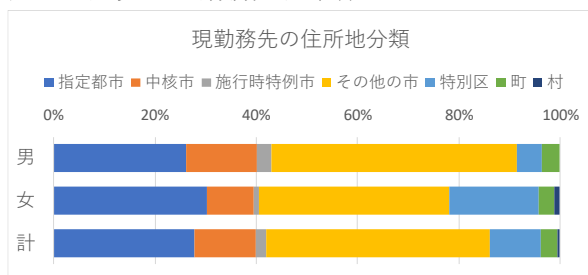
図7. 男女別社会医学系専門医の取得状況



10. 勤務先自治体

都道府県(男性73.8%、女性58.3%)が最も多く、次に指定都市(男性16.7%、女性19.4%)が続いた。

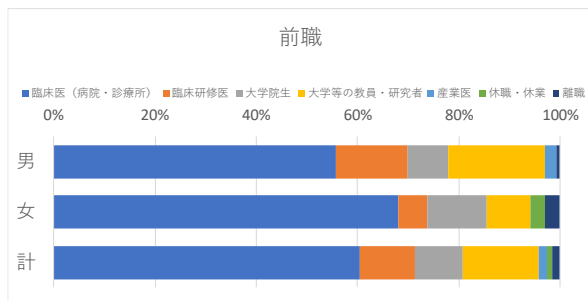
図8. 男女別・勤務先自治体別グラフ



11. 前職

臨床医(病院・診療所)が最も多く(男性55.8%、女性68.0%)、大学等の教員・研究者(男性19.0%、女性8.7%)、大学院生(男性8.0%、女性11.7%)が続いた。

図9. 男女別・前職別グラフ



12. 公衆衛生医師を志望した動機(複数回答)

「社会にとって有益な仕事だから」が最も多く(男性87.7%、女性81.3%)、「興味のある仕事だ」が次に続いた(男性76.8%、女性82.5%)。

表2. 志望動機(「よくあてはまる」または「あてはまる」と回答した人数と割合)

順位	志望動機	人数	%
1	社会にとって有益な仕事だから	220	80.9
2	興味のある仕事だから	203	73.8
3	他の人のためになる仕事だから	200	73.5
4	雇用が安定しているから	156	57.0
5	仕事と家庭生活を両立できるから	142	52.0
6	教育・訓練の機会が提供されるから	72	26.6
7	働く時間などを自分で決定できるから	72	26.3
8	干渉されず、独立した仕事だから	31	11.4
9	高収入だから	17	6.2
10	昇進の機会が多い	13	4.7

13. 現在の仕事と志望動機の順位変化

志望動機も高く現在の仕事への評価も高かったのは「社会にとって有益な仕事だから」であった。

就職後に順位が上がったのは「雇用が安定しているから」であり、下がったのは「他の人のためになる仕事だから」「興味のある仕事だから」「仕事と家庭生活を両立できるから」であった。

表4. 「よくあてはまる」または「あてはまる」と回答した人数と割合

現在 ← 志望	現在の仕事	男性		女性		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%

1 ← 1	社会にとって有益な仕事だから	1 5 1	8 7 7	9 5	9 2 3	2 4 6	8 9 5
2 ← 4	雇用が安定しているから	1 5 0	8 7 7	9 6	9 2 3	2 4 6	8 9 4
3	コミュニケーションがとりやすい職場環境	1 4 4	8 3 7	8 4	8 1 8	2 3 8	8 2 9
4 ← 3	他の人のためになる仕事だから	1 4 5	8 4 8	8 1	7 7 9	2 2 6	8 2 2
5 ← 2	興味のある仕事だから	1 3 0	7 6 1	7 3	7 0 2	2 0 3	7 3 8
6	これからもキャリアを重ねたい	1 1 3	6 6 1	7 2	6 9 2	1 8 5	6 7 3
7 ← 5	仕事と家庭生活を両立できるから	9 9	5 8 9	7 5	7 2 8	1 7 4	6 4 2

14. 現在の仕事における不満・改善点

現在の仕事で改善の余地があるという回答が多かったのは学位取得、留学、研究の機会がある、次に広報が充実（自分の仕事の価値がPRされ、公的に認知されている）であった。

表5. 「まったくあてはまらない」または「あてはまらない」と回答した割合

順位	志望動機	人数	%
1	学位取得、留学、研究の機会がある	152	55.9
2	広報が充実	130	47.8
3	干渉されず、独立した仕事だから	126	44.9
4	高収入だから	108	39.2
5	昇進の機会が多い	103	37.6
6	働く時間などを自分で決定できるから	100	36.3
7	研鑽の機会が充実	86	31.6

15. 「これからもキャリアを重ねたい」と有意に関連のある要因（重回帰分析）

男性は「給与が見合っている」と有意な関連があり、「年齢」上昇とともに有意な低下がみられた。女性は「子どもがいること」、「興味のある仕事だから」と有意な関連が見られた。

（表6、7）

D. 考察

今回の結果から、男女の比較として、共働きや、特別区に居住し勤務先がある公衆衛生医師が女性の方に多いことが明らかになった。

公衆衛生医師を志望した動機としては「社会にとって有益な仕事だから」が最も多く（男性87.7%、女性81.3%）、「興味のある仕事だから」が次に続いた（男性76.8%、女性82.5%）。志望動機も高く現在の仕事への評価も高かったのは「社会にとって有益な仕事だから」であった。公衆衛生医師のキャリアを開始した後に就職後に順位が上がったのは「雇用が安定しているから」であり、下がったのは「他の人のためになる仕事だから」「興味のある仕事だから」「仕事と家庭生活を両立できるか

ら」であり、現職が予想外に多忙であるという感覚が推察される。

現在の仕事において改善の余地があるという回答が多かったのは学位取得、留学、研究の機会がある、次に広報が充実（自分の仕事の価値がPRされ、公的に認知されている）であった。

今後は、今回の結果を医師データ全体と比較し、公衆衛生医師特有の勤務環境や住居環境、家族背景の特徴がみられるかどうか、また、キャリア継続にプラスとなる要因をより推進するようなアプローチと、公衆衛生医師の現在の勤務環境の障害になっている要因を減らすような試みが出来ないのか、全国保健所長会の先生方のネットワークにおいて現場の公衆衛生の意見や感覚に寄り添うような対策を検討して行くことが望まれる。

今後は、これらのエビデンスに基づいて抽出された公衆衛生医師確保のポイントを自治体担当者向けにも、簡便かつ魅力的に見せ、自治体規模や地域特性に応じて公衆衛生医師確保の手段として役立てられるようなツールを構築していく必要があると考えられる。また、今回の成果について地域保健総合推進事業（全国保健所長会協力事業、以下「全国保健所長会事業」）と共有しながら、各都道府県が公衆衛生医師の確保・育成のために活用出来る基礎資料を作成していく。

E. 謝辞

本研究を通じて全国保健所長会事業と本研究班や教育・研究期間、臨床で働く医師のネットワークが交流する機会を持ち、連携し、公衆衛生領域の意義を広め、活性化を促すことが出来たのは、本研究班にとって何よりの副産物であった。今後、より具体的で精緻な人材確保および育成手法を確立するため、引き続き全国保健所長会事業と協力していきたい。

宇田英典先生（鹿児島県伊集院保健所長）、宮園将哉先生（大阪府寝屋川保健所長）、清古愛弓先生（葛飾区保健所長）、廣瀬浩美先生（愛媛県宇和島保健所長）、宗陽子先生（長崎県南保

健所長)、村松 司先生(北海道網走保健所長)
はじめ地域保健総合推進事業(全国保健所長会
協力事業)の諸先生方ならびに曾根智史先生(国
立保健医療科学院次長)、調査にご回答いただ
いた先生方には、本研究遂行にあたり、多大なご
助力とご助言を頂きました。ここに深謝いたし
ます。

図表：

表6. キャリア継続意欲と有意に関連のある項目（男性）

変数	回帰係数	95%信頼区間		p
年齢	-0.017	-0.032	-0.002	0.026
子供あり	0.249	-0.119	0.617	0.183
（動機）雇用が安定しているから	0.082	-0.066	0.229	0.274
（動機）高収入だから	0.030	-0.156	0.216	0.753
（動機）昇進の機会が多いから	0.037	-0.159	0.232	0.713
（動機）興味のある仕事だから	0.212	-0.004	0.427	0.054
（動機）干渉されず、独立した仕事だから	0.007	-0.145	0.159	0.931
（動機）他の人のためになる仕事だから	0.184	-0.097	0.466	0.197
（動機）社会にとって有益な仕事だから	-0.026	-0.343	0.291	0.871
（動機）働く時間などを自分で決定できるから	0.170	-0.001	0.342	0.051
（動機）仕事と家庭生活を両立できるから	-0.025	-0.199	0.150	0.781
（動機）教育・訓練の機会が提供されるから	-0.009	-0.189	0.171	0.918
（現在）給与は見合っている	0.176	0.022	0.330	0.025
通勤時間	-0.045	-0.322	0.231	0.746
定数項	1.701	0.449	2.954	0.008

表7. キャリア継続意欲と有意に関連のある項目（女性）

変数	回帰係数	95%信頼区間		p
年齢	0.001	-0.017	0.020	0.879
子供あり	0.500	0.123	0.877	0.010
（動機）雇用が安定しているから	-0.027	-0.232	0.178	0.792
（動機）高収入だから	-0.089	-0.332	0.155	0.469
（動機）昇進の機会が多いから	0.134	-0.126	0.394	0.306
（動機）興味のある仕事だから	0.409	0.188	0.629	0.000
（動機）干渉されず、独立した仕事だから	0.043	-0.187	0.273	0.710
（動機）他の人のためになる仕事だから	-0.006	-0.348	0.336	0.971
（動機）社会にとって有益な仕事だから	0.004	-0.349	0.358	0.981

(動機) 働く時間などを自分で決定できるから	0.030	-0.211	-	0.271	0.806
(動機) 仕事と家庭生活を両立できるから	0.082	-0.177	-	0.342	0.529
(動機) 教育・訓練の機会が提供されるから	0.178	-0.041	-	0.398	0.110
(現在) 給与は見合っている	0.164	-0.038	-	0.365	0.109
通勤時間	-0.073	-0.457	-	0.312	0.707
定数項	0.336	-1.170	-	1.842	0.658

図10. 結果の概要（平成30年度 地域保健総合推進事業 全国保健所長会協力事業報告会提出）

公衆衛生医師の確保・育成のためのガイドライン策定と女性医師を含む多様な包括型キャリアパス構築に関する研究

【目的】 公衆衛生医師確保に向けた具体的な対象の細分化や細分化された対象別の医師確保戦略の検討

【方法】 研究班によるWebサイトから公衆衛生医師の確保・育成に関するアンケートに全国保健所長会を通じて公衆衛生医師が回答

	人数	平均年齢		配偶者あり	%		子どもあり	%
男	170名	53.4歳	男	153名	90.5%	男	133名	80.6%
女	103名	49.9歳	女	70名	68.0%	女	67名	65.7%

順位	主 要 動 機	人数	%	順位	主 要 動 機	人数	%
1	仕事によって意義を感じるから	220	80.9	6	給与・福利厚生が充実しているから	72	26.6
2	興味のある仕事だから	203	73.9	7	他の専門職と連携がしやすいから	72	26.3
3	他の人のためになる仕事だから	200	73.5	8	子育て・家族との関係が楽だから	21	11.4
4	成長が感じているから	196	71.0	9	満足しているから	17	6.2
5	仕事と家庭生活を両立できるから	142	52.0	10	意識の転換が早い	12	4.7

現在の仕事と志望動機の順位変化

「よくあてはまる」または「あてはまる」と回答した人数と割合

現在 ←志望	現在の仕事	男性		女性		全体	
		人数	%	人数	%	人数	%
1→1	社会にとって意義を感じる仕事だから	151	87.7	95	92.3	246	89.5
2→4	成長が感じているから	150	87.7	96	92.3	246	89.4
3	コミュニケーションがしやすい職場環境	144	83.7	84	81.8	238	82.9
4→3	他の人のためになる仕事だから	145	84.8	81	77.9	226	82.2
5→2	興味のある仕事だから	130	76.1	73	70.2	203	73.8
6	これからもキャリアを築きたい	113	66.1	72	69.2	185	67.3
7→5	仕事と家庭生活を両立できるから	99	58.9	75	72.8	174	64.2

「現在の仕事について」であてはまらない項目

「まったくあてはまらない」または「あてはまらない」と回答した割合

- 1位 学位取得、留学、研究の機会がある ×55.9%
- 2位 広報が充実 ×47.8%
- 3位 研鑽の機会が充実 ×31.6%

今後、充実が望まれる

「これからもキャリアを重ねたい」と有意に関連のある要因（重回帰分析）

男性：「給与が見合っている」、「年齢」

※年齢が上がると低下

女性：「子どもあり」、「興味のある仕事だから」

